

麻しん(はしか)の基礎知識

麻しん(はしか)について

麻しんは感染力が非常に強く、肺炎や脳炎を合併して重症化することもある病気です。また、特に乳児や成人では重篤になりやすいので注意が必要です。

- (1) 感染経路：空気感染・飛沫感染・接触感染
- (2) 潜伏期：10～12日
- (3) 症状
 1. 前駆期：2～4日間、発熱、せき、鼻水など「かぜ」に似た症状が続く。
 2. 発しん期：一旦熱が下がるが再び高熱が出て、顔・首・全身に発しんが現れ3～5日間続く。
 3. 回復期：発熱はおさまり、発しんは色素沈着を残して消退する。
- (4) 治療：特効薬はなく対症療法。
- (5) 患者に接触した時：接触後72時間以内であれば、予防接種により発症予防効果が期待できる。

予防にはワクチンが有効です

手洗いやマスクでは麻しんの感染を予防することができません。麻しんにかかったことがない方で唯一の有効な予防法は、ワクチンの接種により麻しんウイルスに対する免疫を獲得することです。

麻しん含有ワクチンの接種を受けることによって、95%程度の方が麻しんウイルスに対する免疫を獲得できるとされています。このワクチンは、1回でも一定の効果は期待できますが、2回の接種を受けることがとても有効です。

小児では、1歳児の1年間と小学校就学前の1年間(年長にあたる年)の2回、予防接種法による定期接種を受ける機会がありますので、忘れずに受けましょう。定期接種では、多くは風しんの予防にも効果が期待できる麻しん風しん混合ワクチン(MRワクチン)が用いられています。

それ以外の方が接種する場合は任意接種となりますが、医療・教育関係者や海外渡航を計画している方などにおかれましても、麻しんにかかったことがなく、2回の予防接種歴が明らかでない場合は、予防接種を受けることをご検討ください。女性については、MRワクチン接種後2か月間は、妊娠を避ける必要がありますのでご注意ください。

なお、令和元年度から令和7年度末までの間は、昭和37年4月2日～昭和54年4月1日生まれの男性を対象にお住まいの市町村からクーポン券が発行され、風しん抗体価の低い方は、予防接種法による風しん第5期としてMRワクチンの接種を受け

ることができます。このことは、風しんウイルスのほか、麻しんウイルスに対する免疫を高める機会にもなっています。

注意事項

○麻しん患者に接触した場合

予防接種をまだ受けていない場合でも、患者と接触して 72 時間以内に予防接種を受けると発症を予防できるとされていますので、早めの接種をお勧めします。

○疑われる症状が出現した場合

発熱、せき、発しんなどの症状が出た場合には、学校や仕事を休み、早めに医療機関を受診してください。麻しん患者と接触していた場合には、受診の前にそのことを電話等でお伝えください。

過去に予防接種を受けたことのある方は、発しんなどの典型的な症状が出ないことがありますので、麻しん患者との接触や、麻しん流行地域への海外渡航などがあるときは、症状だけで判断せずにかかりつけ医等にご相談ください。